



35th Anniversary
純パの会35周年
1982-2017

Pure 純 No.190 Pacific パ Mar.2017

純パの会会報『純パ』第190号

2017年3月25日発行 / 発行:純パの会

CATCH the ALL! がんばれ辻監督! 明石 玲子

やっとシーズン開幕の日が来た、こんな思いで過ごしたオフは長く感じた。

ここ数年、Bクラスを低迷しているライオンズファンにとって、情報は少なくさびしい限りだった。移籍してしまった岸孝之の動向もあまり聞こえてこない。でも赤いユニフォームもお似合いでイケメンは何を着せてもサマになる、と未練がましく思う。入団からずっと応援してたのだから、と愚痴が出る。岸投手の送別会を企画したのが片岡治大選手だとして、移籍先の球団での活躍の場が減った彼も日本一になった時の仲間たちと集まりたかったのかな。ライオンズを出てから活躍する選手が少ない。でも、涌井秀章がやっとエースの風格を取り戻してきたようだ。

一方、今シーズンは強いライオンズ時代の選手が監督として名を連ねているのがうれしい。パ・リーグには半数の3人もそろった。

辻発彦新監督に関しては、久しぶりに監督らしい人物が就任してくれたと思う。長いコーチ生活で培われた経験を生かしてもらえないのではないかと期待しているが、それに選手が応えてくれるかどうか不安でもある。すっかり負け癖がついてしまった感があるし、はたしてやる気を見せてくれるだろうか。エラーが少なくなるだろうか? 三振が減るだろうか? キャンプでの成果が出れば昨年よりはましな成績が出そうな気がする。投手陣の弱体化は仕方な

ない。人数は多いが中心になって引張ってゆける人がいない。抑えも他球団のように安心して見られる人が出てほしい。高橋朋己に復活の兆しはあるのだろうか。そんなことを考えていると今年もBクラスかな、とネガティブ思考になっている。

若手が育てばカーブやベイスターズのように、いつか芽が出る日が来ると思っている。いつになるかわからないが楽しみに待っている。監督の手腕に期待するとともに、選手にやる気を見せてもらいたいものである。かすかな光があるとすれば新監督就任の年に日本一になったことがあったことだろうか。

WBCにもライオンズからの選出メンバーは2人(秋山、牧田)だけでよかったと思っていたら、嶋基宏捕手の辞退で炭谷銀仁朗が招集されてしまった。そんな時に森友哉の死球での骨折はファンにとっても痛い(楽天がらみで苦勞させられている?)。しかしWBCの強化試合でキューバ、中国に連勝したライオンズ。もしかしたら侍JAPANより強いかもしれない(笑)。

6月下旬に沖縄でマリーンズと2試合が組まれている。合同観戦の計画があれば参加する気であるがいかげんものでしょうか。その時期に両チームとも低迷してないことを願いつつ……

支離滅裂で何が言いたいのか分からない文章になってしまったが、期待と不安が交錯していることだけは確かである。がんばれライオンズ!